

2. 地域交信カフェ「Three Café」 (札幌市南区・石山商店街振興組合)

～ 東海大学生による「地域住民の交流」と「地域の魅力」を発信するカフェ ～

■ 交流の輪を広げる石山商店街

商店街振興組合が入居している「石山振興会館」は、昭和44年に廃止された定山溪鉄道の石切山駅舎だ。駅舎の名が示すとおり、この地域には、かつて北海道開拓を支えた札幌軟石採掘場があった。

商店街では、これまで月2回土曜日開催の朝市をはじめ、月1回金曜日開催の介護予防体操などを行う「コミュニティサロン駅」や店主等が講師となって行う「まちゼミ」など、日ごろから地域住民との交流を大事にした地道な活動を行ってきた。

■ 地域交信カフェの登場

開店のきっかけは、一人の東海大学生のカフェをやってみたいというアイデアから。札幌市の商店街活性化アイデアコンテストでの準グランプリ獲得を契機に、そのとき獲得した賞金を元手に平成27年2月に「Three Café」をオープン。運営するのは、学生中心の地域カフェ研究会だ。

ところが、このカフェが単なる創業話にとどまらないのは、彼らの豊かな発想にある。このカフェの目指すところを地域の「人々」と「魅力」との接点をつくる交流の場、魅力を発信する場とし



たところだ。彼らはこれを地域交信カフェ（交流と発信）と呼んで、店の基本の方針に据え、積極的に商店街活動に参画してきた。

学生のこうした発想は、当然、商店街が進める活動にもマッチしており、店舗探しから運営、イベントへの参加など、開店からここまで商店街と一緒に活動してきた。



営業日：水・木・土・日
営業時間：11時から18時

■ これからも地域に溶け込んだ活動を

開店以来、「地域交信カフェ」の名のとおり、常盤地区農家の産直販売や商店街組合員のパン、クッキーなどをカフェ内で販売し、この地域の魅力を常に発信し続けている。また、絵画展やコンサートの開催など町内会と連携した取組も見られる。こうした活動を通じ、自然に地域の人々との交流が生まれ、店にはいつも住民が気軽に集い、語らえる場となっている。

開店当初から彼らを指導してきた東海大の植田特任助教は「こうした活動を通じて、まちづくりの担い手が育っていくことが大事」と、将来に繋ぐ思いを語っていた。

照会先 (運営主体等) ■東海大学地域カフェ研究会
札幌市南区石山1条3丁目1-35
e-mail community.cafe.labo@gmail.com facebook「地域カフェ研究会」
■石山商店街振興組合 (Tel 011-591-8639)
札幌市南区石山1条3丁目1-30 石山振興会館